

Ceratina 属の異種同居の越冬巢例

著者	根来 尚
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	5
ページ	22
発行年	1983-03-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=477

利用部分で違いが見られ、また、営巣場所も少し異なるようである。

文 献

MAETA, Y. & KATAYAMA, E. 1978. Life history and nesting habits of a small carpenter bee, *Ceratina megastigmata* (Hymenoptera, Anthophoridae). Bull. Tohoku Nat. Agri. Exp. Stat., 58:231—260.

根来 尚, 1980. 日本産ツヤハナバチ (*Ceratina*) 属の生態. II. 石川県内における分布および医王山における3種の生態. 日生態会誌, 30:267—272

塩川 信, 1981. 小さな木工蜂の世界—ツヤハナバチの仲間とその生活(2)—. 遺伝, 35(1):34—39.

YASUMATSU, K. & HIRASHIMA, Y. 1969. Synopsis of the small carpenter bee genus *Ceratina* of Japan (Hymenoptera, Anthophoridae). Kontyû, 37:61—70.

短 報

*Ceratina*属の異種同居の越冬巣例

根来 尚

富山市科学文化センター

Ceratina 属は成虫で越冬し、通常は1個体ないし同一種の複数個体が越冬巣内で見られるものであるが、筆者は2種の同居する越冬巣を観察し得たので報告する。

図1の1は、1974年3月27日石川県金沢市

金沢大学構内のヤマブキより得たもので、*C. iwatai*の4♂1♀が奥にあり、*C. flavipes*の1♀が入口側にいたものである。

図1の2は、1980年10月24日富山県大沢野町猿倉山のススキより得たもので、*C. flavipes*の1♀が奥にあり、*C. japonica*の1♀が入口側にいたものである。

ともに、*C. iwatai*、*C. flavipes*の先住者のいる巣坑をより掘り広げて*C. flavipes*、*C. japonica*が入りこんだものと思われる。

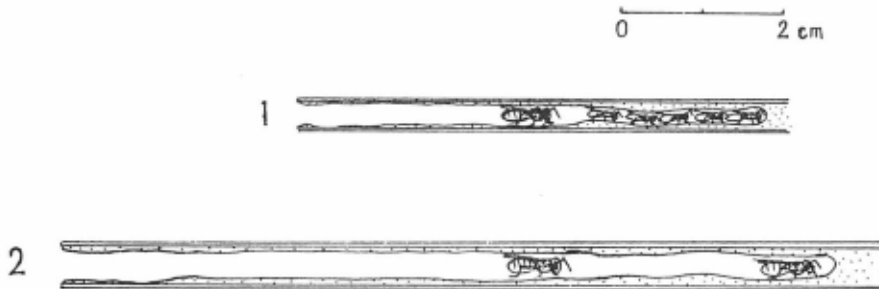


図1 異種同居の越冬巣

1 : *C. iwatai* と *C. flavipes*

2 : *C. flavipes* と *C. japonica*

本文参照のこと